

令和6年3月21日

国際リニアコライダー計画の推進に関する提言（案）

リニアコライダー国際研究所
建設推進議員連盟

素粒子物理学やその基盤となる加速器科学は、物質の究極的な構造や創生期の宇宙の姿を探求する学問であり、最先端の科学技術によって、学術研究から産業応用まで広範な研究開発を支える重要性を持つものである。我が国はこの分野において長年にわたって重要な貢献を続けており、この国際的な競争力を引き続き維持・向上させることは極めて重要である。

特に、アジア初の大型国際科学技術拠点の形成となる国際リニアコライダー（ILC）計画の日本誘致は、科学技術立国を標榜する我が国の研究力向上や成長戦略に資する大きな可能性を持つ。本議員連盟はこのような認識の下、ILC 計画の推進につながる次世代加速器技術開発を国際協力の下で着実に推進することなどを決議し、これまでに一定の進捗がみられることを評価する。

国際社会のパワーバランスに大きな変化が生じる近年、科学技術プロジェクトにおいても戦略的かつ集中的なリソースの投下によるイノベーション力の向上が図られる必要がある。最先端の技術や知見を結集し、人類未踏の研究課題に挑むため、普遍的価値を共有する国々の協力により、大型プロジェクトや先端的な大型実験施設整備を通じて、画期的な成果を上げることが求められている。ILC 計画についても一国のみで実現することは困難であり、また科学技術が人類の平和・幸福に貢献するとの観点からも、国際研究者コミュニティにおける合意を得たうえで、広範な国際協力に基づくグローバル計画として日本での実現につなげる必要がある。

そのような考え方から本議員連盟として、以下提言する。

記

- 一. ILC 計画については、研究者コミュニティ、産業界、建設候補地の推進組織、関係省庁及び本議員連盟はじめ政治によるオールジャパン体制で更なる国内誘致活動を推進していく
- 二. ILC 計画については、ICFA のもとに設けられた国際推進組織である IDT と国内研究者コミュニティの連携を核とした国際連携をさらに強化し、グローバル計画として一層の推進を図る
- 三. グローバル加速器計画実現に向けた国際研究者コミュニティの議論に、文部科学省は、将来の高性能加速器に関する連絡会の枠組みも活用して、内閣府、さらには関係省庁とも連携しつつ積極的に協力すること。

以上